

准校長から6月号（平成27年）

蒸し暑かったり雨の日があるなど梅雨の6月になりました。登校してくる生徒たちの様子を見ても、少し疲れているように感じます。

今月の学校の様子を紹介したいと思います。2日から5日までが前期の中間考査でした。考査中は廊下から生徒たちの様子を何度か見ることができました。考査前の表情や雰囲気は、「テスト嫌だなあ」といった感じの生徒がほとんどでしたが、考査中は皆、真剣に頑張っていました。成城高校の定時制では、テストは前期と後期のそれぞれに中間考査と期末考査があるので、年に4回あるのですが、このテストの点だけで成績を決めるのではなく、出席や平常点が重視されます。普段の頑張りが大切であると、機会あるごとに生徒たちには伝えていきます。小さなことであっても、コツコツと日々の努力を積み重ねることを学校生活のなかで身につけていって欲しいと願っています。

テストが終わり、22日が創立記念日でした。この日には成城高校の定時制の同窓会があり、卒業した人たちが学校に平日の夜にもかかわらず30人程集まってくれました。こうして、学校や先生を懐かしんで来てくれることが教師をして一番の喜びです。私は今年からの校長なので、残念ながら誰ひとりとして知らないのですが、全員がよい表情をしていて、この学校で学んだことをとても大切な思い出にしていることがよくわかりました。定時制高校への入学は簡単かも知れませんが、働きながらであったり、夜に授業があったりするため、卒業するということはとても大変なことです。集まった卒業生たちは、この成城高校定時制で学んでほんとうに良かったと語っていて、先生や友と過ごしたこの空間を懐かしんでいました。しかし残念な話もあるのですが、今後、成城高校の北館の校舎を立て替えのために取り壊すことになっています。思い出の校舎の半分がなくなってしまうことを残念がっている人もいました。耐震のためなので仕方ありません。建物はなくなってしまうかもしれませんが、仲間たちと作った思い出は、消えてゆくことはないと言っていた様子が印象的な一日でした。

そして26日は体育祭が予定されていましたが、残念ながら雨天で一週間延期になってしまいました。生徒会の生徒を中心として6月上旬の準備から始まり、前日の予行まで、準備万端でありましたが、当日の雨では仕方ありません。きっと、7月3日には夜間照明で照らされるグラウンドに生徒たちの歓声がこだましていることでしょう。来月には、体育祭の様子をお伝えしたいと思います。

さて、成城高校のことをご紹介します。学校は城東区諏訪三丁目にあります。この諏訪という地名の由来は、学校の近くに諏訪神社があるからだそうです。諏訪神社は全国で五千余りあるそうです。そう言えば、私の生まれ故郷にもあります。すべて長野にある諏訪大社の分社だそうです。学校の近くにある諏訪神社には、「菅公腰掛石」というものがあります。学問の神様と言われる菅原道真が九州へ左遷される時に、この神社に立ち寄り、この石に腰かけたということです。そして、この石に座ると賢くなると言い伝えがあり、多くの人が座ったようで、石の上部がすこし滑らかです。菅原道真ゆかりの京都北野天満宮にも同じように、なで牛という石でできた牛の像があって、頭とかはツルツルになっていたことを思い出しました。学校へ行く道も、かつて菅原道真も歩いたのかと思うと、感慨深いものがありますが、学校へ行く前に立ち寄って、私もこの石に座ってみました。そして、成城高校定時制の生徒の皆が、賢くたくましく生きていけるようになって欲しいと、学校の方を見ながら考えていました。これをお読みいただいた皆さんも是非、学校の近くにある諏訪神社へ行ってみてください。夏の暑い時にでも、この神社では立派な木立のお蔭で少しは涼しく感じることができます。

今月も最後まで、お読みいただきましてありがとうございました。